# 暗軍新報

## 新聞紙の記事論說

新聞紙は社會の文化を代表するの機關にして紙上の記事論說は恰も其時代に於ける智德の程度を映出するものなれば文關の如何は其程度の高低を卜知するに足るものなりと云ふ我國封建の時代には新聞紙の發行なかりしが故に其時代に於ける智德の程度如何は之を知るに由なきが如くなれども新聞紙外に我輩の書に讀み人に聞く所を以てすれば自から亦其臭からざるを徵するに足るものあり然るに今日の新聞紙上に現はるゝ所の文字を見るに記事と云ひ論說と云ひ之を社會の智德の代表とすれば當時に比して却て退歩の實を證するものゝ如し所謂小新聞の紙面に醜語を并べ醜事を記して家庭の間に其紙片の散逸を恐るゝ程のものあるは法外として之より以上の大新聞に至りても感服す可らざるもの少からず記者の言に從へば新聞紙は社會の代表のみならず其先導者にして公衆の智德を推進する者なりと敢て自から任じながら時としては其文調極めて野卑にして事を記すれば馬言讒謗に陷り事を論ずれば離間中傷を兎れず人をして一見嘔吐を催ほさしむる其趣は坊間下郎の社會にも行はる可き言語を其まゝ使用するに似たるものさへなきに非ず元來日本の上流社會には自から其社會に普通の言語ありて人々相對する場合には苟もせざるの慣例なるに其上流社會に行はるゝ人事政事等を論記するに下郎社會の言語を使用して怪まざるは恰も良家の士女團欒の席上に向鉢卷捲舌の醜態を演ずるに同樣の戲にして社會の智德を推進する者の筆としては聊か不似合あるが如し蓋し大小新聞紙の記者その人は必ずしも不智不德にあらずして自から君子の人なれども世上一般の時好に投ぜんとするには止むを得ず强ひて醜を記すの意味もある可し斯の如きは則ち記者の罪にあらずして實は讀者に歸す可きが如くなれども左るにても苟も社會の表面に先導者を以て自から任ずる上は我輩は之に向て多を求めざるを得ず殊に外交の事に關して一段の注意を斷る其次第を云はんに諸新聞紙中往々外事を記すに其文字の修まらずして意味の錯誤なるみと一見して先づ驚く可きものあり例へば露國の政略を記せば双頭の鷲、翼を伸べて云々英國の近狀を述ぶれば歐西の獅王、牙を磨て云々と云ひ其他侵略と云ひ呑噬と云ふが如き驚愕形容を大にせんとして鉛硬の文字を用るみとならんなれども單に其字義に就て解するときは何れも不穩殺風景の意味ならざるはなし凡そ外交の關係は極めて微妙なるものなれば其事を論記するには地位身分の如何に拘はらず常に外交の局に當り外國の公使と相對するの覺悟を以てせざる可らず虛々實々の政略上には時に內情の關係非常に切迫のものありても表面には飽までも顏色を和らげて接するみとへ其常なるに露と云ひ英と云ひ目下の關係に於ては寧ろ丈す〳〵好意を重ぬ可き其友邦に對して猛獸食雷なぜ正面に敵意を表するの語を發するとは妄も亦甚だしと云ふ可し畢竟智慮の足らずして微妙なる外交の關係を知らざるが爲めに外ならざる可けれども國と國との關係に於ては一個人の言と雖も其影響する所少小ならず況んや一國の社會を代表するて云ふ新聞紙の記事論說に於てをや自から省みて其言實の輕からざるを合點し大に慎む所なかる可らず我輩は今の新聞紙を社會の代表者として竊に其不倫を咎むるものなれども假令ひ其內事は兎も角もとするも外交上の事は特に重しとして與れ〳〵も注意を希望するものなり

## 雜報

○剩餘金の分取問題　追々議會の開期にも近寄りたれば豫算問題の關議に上りて空しく國庫に堆積せる剩餘金の處分を議定するも近日の中なる可しとの事なるが之れぞ元勳出揃の新內閣が施政方針の大部分を決するの秋なれば目下在野の代議士、政黨員等は議會に對する運動の方針を定めんが爲め頻りに其模樣を窺ひ居る趣、今各省に於て調査中なる豫算問題の重なるものを擧ぐれば陸軍省にては東京灣、紀淡海峽及び下ノ關の砲臺建築に係る繼續事業の年限を半減に繰上げ且毎年度の支出金額も始めに多くして後年には次第に減ずる事となしたれば之れが爲め隨分巨額の臨時費を增す可く殊に同省積年の計畫なる鳴門及び藝豫海峽の二砲臺の建築も繼續事業として次の議會に要求する事と爲したれば更に臨時費の增加を見る可く又海軍省は三回まで失敗したるにも拘はらず益々軍艦の製造を必要と認め今度は其經費を倍額にして次の議會に提出する事に決し又內務省にては河身修築の繼續年限を繰上げ且つ末年の支出金額を減じて初年の支出を增したれば此分も餘程增加す可し遞信省も數年來の目論見大隅、沖繩間及び出雲、隱岐間に海底電線を沈設するの費用及び電信、電話、郵便小包開業等の經費をも增加する事に決したれば之れも巨額の增加を見る可く其他文部省は傳染病研究室の創立、第一醫院の增築及び各府縣立及び市町村の公立に係る農工商業の學校を補助する等の計畫もあれば是れ亦臨時の增額を生ず可く農商務省にても横濱、神戸に生絲檢査所を置き又全國三四箇所に農產試驗所を新設し又水產奬勵の方法等をも設くるの見込なれば亦臨時費を增す可し以上は唯政府の新事業とも云ふ可きもの〳〵重要なる部分を列擧したるものなれば此外尙ほ多少の新問題もある事なる可し右は皆現在の剩餘金及び未來に於て生ず可き餘分を見込みて計畫を立てたるものなるが尙ほ品によりては海外航路擴張の補助、新に大學を設立するの件及び兵器彈藥製造等の軍備に係る事業の擴張問題の起る事もある可し要するに次の議會に豫算案の現はるゝときは政府全體の經常費出は增額し減じて臨時費出の驚く可き增額を見るならんと云ふ

○昨日の內閣　は前日と同樣一大臣も出頭せず伊東書記官長其他書記官も正午時過一同退出せりと

○英國內閣員の比較　本日掲載のルートル電報は英國內閣の役割を報ぜり就て見るにトレヴェリヤン氏が蘇蘭事務大臣に任ぜらるれば之を合して閣員の數は十四人なるが如し左に前保守黨の內閣と新內閣の比較を記す

| 官名 | 舊保守黨內閣 | 新自由黨內閣 |
|---|---|---|
| 總理大臣 | ソールズベリー侯 | グラッドストーン氏 |
| 大法官 | ハルスベリー卿 | ハースチエル卿 |
| 樞密院議長 | クランブルーク子 | キムバーレー伯 |
| 侍從官 | カドガン伯 | 總理兼任 |
| 大藏大臣 | ゴッシエン氏 | アスクイス氏 |
| 植民事務大臣 | マッシユース氏 | 樞密院議長兼任 |
| 內務大臣 | ナツツフォールト卿 | リポン侯 |
| 陸軍大臣 | スタンホープ氏 | ローズベリー伯 |
| 外務大臣 | 總理兼任 | バンナーマン氏 |
| 印度事務大臣 | クロツス氏 | スペンサー伯 |
| 海軍大臣 | ハミルトン卿 | |

| | | |
|---|---|---|
| 大藏總裁 | バルフオア氏 | 總理兼任 |
| 愛蘭大法官 | アシユホーン | ○ |
| 愛蘭事務大臣 | ヒツクスビーチ氏 | ○モンデラ氏 |
| 商務院長 | ラトランド公 | |
| ランカスタル公國大守 | | ○ |
| 地方政務院長 | リツチー氏 | フォーラー氏 |
| 農務院長 | チヤプリン氏 | ○ |
| 驛遞總監 | | エー モーレー氏 |
| 教務院副議長 | ○ | ヨン モーレー氏 |

又同じ自由黨の內閣にして今度の組織と過る千八百八十六年のものを比すればローズベリー伯、ハースチエル卿、モンデラ氏及びトレヴエリヤンの四氏は前職の再任にして閣員の數には在れども前後の官職を異にするはキムバーレー伯、バンナーマン氏、リポン侯、ハーコート氏、スペンサー伯、ヨン モーレー氏等なりグラッドストーン氏は前後共に二職を兼ね而して前年內閣員の席にあらずして今度其內に列するは驛遞總監及び教務院副議長の二者又今度內閣員の席にあらずして前年閣員席たりしは愛蘭事務大臣なるが如し

○英國內閣員の略歷　今度英國自由黨の內閣に入りし重なる人々の略歷を左に揭ぐ

キムバーレー伯は千八百二十六年に生れ祖父の爵を襲ぎてウォードハウス子となり後にキムバーレー伯に進めらる其始めて官途に就きたるは千八百五十二年十二月にして外務次官に任ぜられアバーデーン及びパルマルストーンの兩內閣に亘り續いて露國駐在大使に任ぜられ歸りて再びパルマルストーン第二回目の外務次官となる夫より印度事務次官愛蘭大守等の官を經て千八百六十八年十二月よりグ氏の內閣に於て衛藏官となり中途にして殖民事務大臣に轉じて其內閣辭職の時に至る次にグ氏第二回の內閣にては前同樣殖民事務大臣にランカスター公國大守を兼ね後に印度事務大臣に轉じ第三回目內閣組織の時も同官に任ぜられたる人なり

外務大臣　ローズベリー伯は千八百四十七年倫敦に生る父はグルメニー卿母はスタンホープ伯の一人娘カザリン ルーシー ウイルヘルミナ孃なり千八百六十八年祖父の死するに及んで其爵を受けローズベリー伯となる千八百七十一年國會開會の折總理大臣グラッドストーン氏に撰ばれて勅諭奉答文原案の說明者となる是れ伯が議院に於て演說したる始めなり爾來屢々議場の討議に頭角を顯はし又屢々重要の委員に撰ばれ千八百八十一年內務次官に任ぜられ同八十三年辭して工部院長となるグ氏が第三回目に內閣を組織するに及び外務大臣に任ぜられ外交の困難なるにも拘はらず能く强硬を守りて內外の稱贊を博せり夫人はロスチャイルド卿の一人娘ハンナ孃にして千八百七十八年三月二十日結婚したる由

印度事務大臣　カムベル バンナーマン氏は故ゼームス カムベル氏の第二子なり千八百三十六年に生る千八百六十八年十二月より自由黨議員として黨の爲めに全力を盡す千八百七十一年より同七十四年まで海軍事務次官となり千八百八十年再び同官に任ぜられ千八百八十四年より同五年の頃トレヴエリヤン氏に代りて蘇蘭事務大臣となりグ氏第三回目の內閣の折は陸軍の大臣なりし夫人は故少將フルース氏の女なり

陸軍大臣　リポン侯の始めて政海に入りしは千八百四十九年にして此時特命大使の施行員として白耳義に赴き千八百五十二年の總選擧に撰ばれて始めて下院議員となり千八百五十九年上院に入るまで重職に[illegible]

にあり千八百六十三年陸軍大臣となり千八百六十六年印度事務大臣となり千八百六十七年印度總督の執政の折印度大守に任ぜられ且つ其間植民地の人民は侯を喜ばず而して本國人民は却て侯を足するみとも亦前代未聞なり

內閣にては海軍大臣にて年植民事務大臣　ヴアーノン十七年十月生るグ氏最初のオラルを勸め第二の折は內閣は大藏大臣となれり其間は又タイムス新聞に屬々論るものは後に修正して出版

海軍大臣　スペンサー伯は大守第二には樞密院議長に月四日コーパー伯辭職した守に任ぜられ同月六日ダス公國の暗殺事件即ち新任カヴエンデツシユ卿及び同氏が同城近傍に於て暗殺さに侯は親ら懲罰條例を施行年三月には樞密議長の本官みと舊の如く以てグ氏の第至る翌年其第三回の執政ぜられ大に自治案を贊成に目的を達する能はざりし驛遞總監　アーノルト モーレー氏の第四子にして始八十年なり千八百八十六年次官なりし

地方政務院長　フォーラー同八十四年十二月內務次官內閣には大藏財務次官と乘人皆望を屬し次の內閣にはなしとの評なりしが果して

教務院副議長　ヨン モーレー氏は愛蘭事務大臣にして自同案に熱心なるみと同黨內力を極めて論議したれども一する能はざりし併し最も之なりには大に威服すると云

○梨本宮守正王殿下　は故遂葬に付京都へ出發の處一

○山縣司法大臣　は昨二十至り二好次官其他各局長等改革の件に付會議を開き終永田町なる樞密院の事務室

○土方、岩村兩氏の出發　る土方宮內大臣、岩村陶料宮內大臣秘書官は前號の本日該地へ向け出發したり

○眞木、堀河兩氏の歸京　として京都へ出張したる眞の兩氏は一昨十九日歸れり

○山口主殿局長の出張　れたる同局長は昨二十日出

○千坂岡山縣知事の歸內　は昨二十日午前十時急[illegible]全下賜の御證を申上げ[illegible]